

- 2013年10月1日から2016年11月30日まで岡山大学病院 消化器外科において胃癌に対する腹腔鏡手術を受けられた方へ -

「腹腔鏡下胃切除後の術後鎮痛法に関する検討」へご協力をお願い

研究機関名 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
岡山大学病院

研究機関の長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
研究科長 那須 保友
岡山大学病院
病院長 槇野 博史

研究責任者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座 消化器外科学分野
教授 藤原 俊義

1. 研究の概要 (研究の背景、目的及び意義)

硬膜外鎮痛法（背中から痛み止めのチューブ）は腹部手術後の有効な鎮痛法であり、標準的な鎮痛法として普及しています。しかし、硬膜外鎮痛法では、非常に稀ですが、硬膜外血腫や膿瘍形成などの重篤な合併症を起こす可能性もあります。一方、近年胃癌に対する腹腔鏡手術が普及し、その割合は年々増加しています。腹腔鏡手術の開腹手術に対するメリットの最も大きなものの一つが、創が小さいため、術後の痛みが少ないことでもあります。本研究では、胃癌の腹腔鏡手術後における硬膜外鎮痛法の有用性や安全性について検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2013年10月1日から2016年11月30日まで岡山大学病院 消化器外科において胃癌に対する腹腔鏡手術を受けられた方約160人を対象とします。

2) 研究期間

2017年3月10日 ~ 2019年3月31日

3) 研究方法

対象となる研究対象者に対し、術後硬膜外鎮痛法を行った症例および術後opioid静注患者自己管理型鎮痛法を行った症例について診療録を用いて調査します。

4) 使用する情報

研究に使用する情報として、診療録から抽出した情報を使用させていただきますが、あなたの個人情報情報は削除し、連結可能匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 情報の保存及び廃棄の方法、二次利用

本研究に使用した情報は研究終了後5年間、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器外科学内(臨床研究棟8F)内で厳重に保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。保存期間終了後は電子情報はコンピュータから削除しその他の情報はシュレッダーで裁断し廃棄します。

なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、ホームページならびに岡山大学病院 消化器外科外来に掲示するの掲示板にポスターを掲示してお知らせします。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、この研究におけるあなたの個人情報等の開示はあなたが希望される場合に行います。この研究の結果はあなたの個人情報が分からない形にして学会、論文で発表しますのでご了承下さい。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2017年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 低侵襲治療センター 助教
電話：086-235-7257 (平日10:00~17:00まで)
ファックス：086-221-8775

菊地 寛次